

館固有の設置目的

文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心の繋がりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものである。今後整備する新たな「博物館」は、川崎ゆかりの文化財の保存と活用を図り、川崎の歴史と文化についての認識を深める機会を提供するとともに、併せてそれらから得られる知識・情報などを咀嚼・発展させることで川崎の現在、そして未来を想像する場も提供する。また、公立博物館として、川崎ゆかりの歴史文化資産としての資料・情報を収集、保管、調査・研究、展示するとともに、市民の川崎の歴史と文化に関する活動並びにそれを通じた交流の場を提供し、もって市民の教育、学術及び文化の発展に努める。

基本的な理念

1 川崎市アイデンティティ（個性）の醸成

本市の特徴は、世代、人種、国籍をこえて成長してきた多様な文化といえる。これは、日本各地との交流などによって生まれた歴史環境^{*1}と山・川・海と変化にとんだ自然環境により、市域の村や町が育んできたそれぞれの地域性が土壌となって、明治時代以降の近代化にとまない都市として発展し、日本や世界各地から多くの人々が移り住んできたこと^{*2}から生まれており、互いに密接な関係をたもちながら長い年月をかけて作りだされた多くの村や町の歴史・文化が基盤となって、現在の川崎市が生まれた。

近年、急激なグローバル化が進み、日本各地で過去から受け継がれてきた歴史・文化などのアイデンティティや絆が急速に失われ、本市においてもその解決が課題といえる。加えて、近代化の負の遺産である環境問題^{*3}を克服し、先端産業や研究開発機関などの拠点へと変化したように、ダイナミックに変貌する川崎市^{*4}の現在（いま）を記録し、未来への財産とすることも重要である。

村や町、都市川崎の歴史と文化が生みだしてきた歴史文化資産は川崎市の宝であり、この貴重な資産を100年、1000年と保存し、未来へと引き継いでいくことは、川崎市に生きる私たちに課せられた重い責任である。

この問題を解決するためには、川崎市に係る人々（市民、企業など）が、川崎市の素晴らしさ・魅力を再認識し、「我が街・川崎」として誇りと愛着をもつとともに、これからの川崎市を担う子どもたちの心の支えとなるよう、川崎市のアイデンティティの醸成に努める。

2 「川崎市民と川崎に係る人々の「私と川崎」が見つかる博物館」

多様な世代・人種・国籍の人々、昔から住み続ける地元の人々、高度経済成長期に川崎市で働いた人々、最近移り住んできた人々、川崎市と縁のある全ての人々が、自らの軌跡（バイオグラフィ）を綴り、大切な思いなどを発見することができる場^{*5}を提供する、コミュニティビルダー^{*6}的な存在を担う。

めざす姿、独自の姿勢

1 市民文化の発展や向上に貢献する博物館

川崎市の多様な歴史文化資産である資料や、自然環境や風土・風習等の情報などを一元的に保存管理し、提供・活用することで、市民や市に係る人々などが、郷土川崎の歴史・文化などについて学び、新たな発想や気づきなどを生み出す場が必要である。

そのため、市民や市に係る人々などが、都市川崎に誇りと愛着をもち、過去・現在・未来を見据えつつ、多彩な人々の営みや市内各地の多様な地域性を再発見・再評価できるように、様々な資料を収集・保存し、次の世代に継承していく。

2 過去・現在を学び、未来を考える博物館

歴史文化資産である資料・情報の収集、保存・管理、調査・研究だけでなく、併せて毎日刻一刻と変化する現在川崎のリアルな姿^{*7}を未来に残す取組を積極的に行うことで、多様な価値を見出し、多くの市民に活用してもらおうという循環（サイクル）が重要となる。

そのため、市の財産である歴史文化資産（文化財や遺跡など）は、この川崎の地における人と人との関係の中で育まれてきた。それらを知り、学ぶことで過去の社会や文化が見え、現在を見つめ直すとともに、市の未来、自分たちの将来について考えることができる博物館を目指す。

3 川崎市の将来を担う子どもや若者を育む博物館

市の未来は、今を生きる子どもたちが作っていくことから、彼らに博物館に来てもらい歴史・文化などを学んでもらい、郷土の歴史・文化への関心を高めることで、彼らが将来を担うために必要な力となるアイデンティティ（個性）や郷土川崎への愛着を醸成していく必要がある。

そのため、学校教育と密接に連携しながら、子どもが関心をもつテーマなどを多く扱うとともに、状況や内容をイメージし易い展示や歴史・文化に触れながら学ぶ^{*8}体験学習事業などを積極的に実施していく。

4 人と人が繋がる場を創造し続ける博物館

市民や市に係る多くの人々のために、自由で広く開かれた博物館として人と人がつながる場を提供するとともに、歴史文化遺産のデジタル化を進め、ホームページやSNSなどを通じた積極的な情報発信を行うなど市の歴史文化資産への関心を高め、積極的に学び、知る活動を継続的にサポートしていくことが必要である。

そのためには、博物館だけでなく、市民や市に係る人々、その他博物館に係る人々などと積極的に連携する^{*9}とともに、博物館の場を用いて相互交流を促進できる博物館^{*10}を目指す。

5 市民とともに創り、成長する博物館

博物館を利用する市民や市に係る人々と連携・協働することで、『知産知承^{*11}』の役割を推進するとともに、お互いに切磋琢磨しながら、常に新しい取組などを創造し、博物館の使命を果たすべく成長していく博物館を目指す。

めざす姿に向けた取組

注釈（新たな博物館の使命）

- *1 近世には、東海道・中原街道・大山街道・津久井道等、市域を横切る街道を中心とした交通網の発達や、多摩川を使った水運等により、全国から多くの人々・物資が行き交った。街道等には宿場や渡し、旅籠や商店等が整備され、そこに集まった人たちにより様々な文化が発信された。
- *2 近代化が進んだ明治～昭和初期には、出稼ぎ先等として、沖縄県や朝鮮半島から多くの人々が来た。戦後の高度経済成長期にも市内の工場等で働くために全国各地から人々が集まるとともに、20世紀後半以降は、中国やインドを中心に海外からの人々等も多くやってきている。
- *3 公害問題、主に大気汚染（ぜんそく等）や水質汚濁の問題
- *4 人口が増加し続け、各区で行われる再開発事業やインフラ等の再整備で日々街の風景が変わっていき、力強く生き生きと躍動する市を表現したもの。
- *5 大切な思い＝自分または親しい人々が生きてきた道と地域や国が歩んできた時代・歴史が重なり、自分たちが生きてきた証等を再確認できた思い。
- *6 「人が繋がる場」を創造し続ける存在。
- *7 長い年月をかけて歴史や文化を育み、各地で培われてきた自然環境や風土・風習等。
- *8 最近一般的になっている体験型展示と呼ばれる手法で、歴史的・文化的資料の実物等を用い、見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触るといった五感の刺激を経験することでより体感的に学ぶこと。
- *9 博物館が有する歴史文化資産等の展示・活用だけでなく、場所や施設も含めて、市民や企業等が実施する川崎市の歴史・文化に係る活動の支援を行うとともに、その活動と連携して博物館の魅力や価値を理解し、さらに活用してもらうための取組を行うこと。
- *10 *9の連携を積極的に行うために博物館そのものを積極的に開放・活用するとともに、インターネットで繋がった仮想空間（サイバー空間等）等を用いて多くの人たちと連携した取組を行うとともに、そうした場を利用する市民や企業等の取組も継続的に支援していく博物館。
- *11 博物館は、人と人、世代をつなぐ知のプラットフォームであり、人々とともに知を創造し、知を社会と共有し、次世代に継承していく役割を担う必要があるという考え。（提唱：小川義和氏（国立科学博物館））